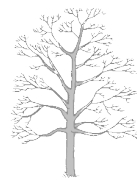


学校だより



12月号

合唱曲に 思いをのせて

校長 井出 了一

朝晩すっかり冷え込み、色づいた校庭の木々も北風に吹かれて足早に散っていきます。夕空には宵の明星“金星”がひときわ明るく輝いてきました。乾燥した寒気で空が澄み、きらめく星々に冬の到来を感じます。早いものでカレンダーも最後の一枚となりました。一年間、子どもたちの安全や充実した学校生活に向けて、多くの方々に支えられてきたことに、心より感謝申し上げます。



11月5日(土)の第1回「本太小スマイル音楽会」には、自治会長さんや各ボランティアの皆さんをはじめ、たくさんの地域・保護者の皆様にお越しいただきました。日頃それぞれの立場で見守り、御支援いただいている方々に感謝の気持ちを表わそうと、各学年の児童が合唱や合奏を一生懸命に練習し、その成果を発表しました。「楽しそうに歌ったり演奏したりする姿に元気をもらった。」「低学年は楽しく元気が伝わってきた。学年が上がるにつれて迫力が増したりハーモニーの美しさを感じたり、成長が見られた。」など、温かい感想をたくさん頂きました。保護者の皆様にも、お子さんの成長ぶりをご覧いただくことができ「来年以降もぜひ続けてほしい。」との声をいただきました。初めての行事で至らなかった点多々あったかと思いますが、改善しながら来年度以降も続けていきたいと思っております。



【6年生：八木節の演奏】

ところで、来年(平成29年)は、教育界にとって大きな変革の年となりそうです。平成32年(2020;東京五輪の年)から全面実施される新学習指導要領に向けて、改訂や新しい教科書作りが一気に進みます。これに向けて、教育再生会議の提言が出されていますので、その一部を御紹介します。

「全ての子どもたちの能力を伸ばし 可能性を開花させる教育へ」(第九次提言)

我が国の学校教育、とりわけ義務教育はこれまで、全国津々浦々にまで高い水準の教育を普及し、成長を支える人材の育成に大きな成果を上げ、国際的にも高く評価されてきました。学級などの集団の教育力を生かした指導、確かな学力の育成を担保する充実した教科指導、豊かな情操の涵養や生活指導も含めた人間として調和のとれた育成を目指す指導、授業研究や研修等への教師の熱心な姿勢や、児童生徒等のために家庭にまで働きかけようとする使命感の強さなど、我が国の教育が培ってきた強みは今後も大切にすべきです。

しかし一方では、これまでの教育で十分に力を伸ばし切れていない子どもたちがいるのも事実です。このような子どもたちに、一人一人の状況に応じて、その力を最大限伸ばすために必要な教育を提供するという視点に立つことが重要です。多様な個性や能力のある子どもたちが、これまで十分に伸ばせていなかった能力を開花させ、社会の中で活躍できる可能性を広げられるよう、これまで以上に学校が地域や社会と連携しながら、これまでよりも包容力を高め、懐深い教育を展開していくことや、ICT等を活用して一人一人の特性に応じた適切な配慮や支援を充実し、世界で最も進んだ教育を実現していくことが必要です。・・・(以下略)

私は、この提言のキーワードは「多様性」と「包容力」だと考えます。包容力は、耐える・我慢することとも言い換えられます。多様な周囲と折り合いをつけながら、自己を確立する「コミュニケーション能力」が、ますます重要となるでしょう。



本太小学校では、相手とあるいは集団の中で、自分の意見をしっかり持ち、友達の思いも生かしながら話合いができる子の育成に向けて、今後も言語環境の整備や充実、特別活動の研究に努めてまいります。